第 一章 望ましいなごやの姿

展望編

わたしたちが目指すべきなごやの姿とは



(1) 2050年に向けたビジョンと戦略

「環境の世紀」の折り返しにあたる2050年に向けた戦略を立てました

< 2 0 5 0 年のビジョン>

多様な生物と生態系に支えられた 豊かな暮らしが持続していく都市なごや

< 視 点 >

- ·気候風土や地形を活かし、自然の摂理に逆らわない
- ·他の地域からの恵み<mark>に感謝し、その生態系に</mark>配慮する
- ・生きものとの共生を目指し、自然との新しいつきあい方を創造する

< 戦略 >

自然に支えられた健康なまちの創造

- 1 生きもののすめる場所を拡大していきます
 - ~ 土・水・緑をまもり、ふやす~
- 2 自然の質の向上
- ~ 風土にあった植生・生物相 ~
- 3 土・水・緑のネットワークづくり
- ~ 緑と緑、緑と水辺をつなぎ、まとめる~



生物多様性を再生し、活かすしくみづくり

- 1 生物多様性を活かす社会システムづくりをすすめます
- 2 自然共生まちづくりを推進する場として「情報交流ネットワーク」 づくりをすすめます



環境負荷の少ない 暮らし・ビジネスの創造

- 1 自然を活かした快適な省エネライフ
- ~ 生物多様性配慮と気候変動対策の統合 ~
- 2 賢い商品選択と流域圏の連携を強めます
 - ~ 持続可能な農林漁業を支える流通・消費~
- 3 新たなビジネスモデルの創造
 - ~生物多様性への貢献と活用~

3

自然とともに生きる 文化の創造

- 1 短期目線から長期目線へ転換します
- ~「自然の助けを借りるくらし」への発想転換~
- 2 新しい担い手づくりをすすめます
 - ~ 自然とつきあう知恵の共有~
- 3 地域の自然を活かしたコミュニティづくりをすすめます
 - ~共汗から共感へ~

戦略1:自然に支えられた健康なまちの創造

- 2050年のまちと自然をイメージしました -

生きもののすめる場所を40%に拡大(緑被率25% 40%) なごやらしいたくさんの生きものに身近なところでふれあえる 土・水・緑がつながる回廊を、生きものたちが行き来する

イメージを実現するために、3つの方針を立てました

方針1 生きもののすめる場所を拡大していきます ~土・水・緑をまもり、ふやす~

目標1 樹林・農地など、まとまりのある生息地を保全していきます

<施策の方向性と想定する取り組み>

民有地の新しい保全制度

- ・民有の樹林地や農地の環境・防災機能に対する優遇
- ・水田のオーナー制度などへの優遇

既存制度の積極的な活用

・特別緑地保全地区、市民緑地等の指定

生きものの生息地の良好な維持管理

- ・固有種や希少種の生息地は、周辺環境とあわせて保全
- ・生きものの生息地となる樹林地の良好な維持管理

良好な自然スポットの評価制度

- ・良好な自然環境を、市民自然遺産などとして指定
- ・市民協働による評価のしくみづくり

目標2 生息地を、身近な場所に広げます(生きものと一緒に暮らせる市街地づくり)

<施策の方向性と想定する取り組み>

まとまりのある生息地を創出(公園・緑地の拡大)

・長期未整備公園緑地の事業推進、先行取得地の利用

建物敷地を活かした、身近な生息地の拡大

・緑化地域制度の推進により、市内全域で緑を創出(公共施設、大規模施設、駐車場など)

道路を活かした、身近な生息地の拡大

・広幅員街路における緑地帯の面積を拡大

河川・水路・ため池を活かした、身近な生息地の再生

・水の回廊の形成を推進します。(河川・水路やため池など水辺空間の多自然化を検討します)

目標3 新しいまちづくりで、生息地のまとまりを拡大します

<施策の方向性と想定する取り組み>

川そば・池そば・森そば・崖そばの自然再生

- ・地形や水循環を考慮した空地の集約による、生息地のまとまり拡大
- ・ヒートアイランド現象抑制、防災機能向上の連動
- ・集約した空地を緑地や農園に活用し、市民協働で支える

(3) 2050年に向けたビジョンと戦略

方針2 自然の質の向上 ~風土にあった植生・生物相~

目標1 正確な自然環境の情報を収集・蓄積・共有します

<施策の方向性と想定する取り組み>

多様な主体による自然環境調査の体制整備

- ・市民、行政、事業者、専門機関などによる調査
- ・生物種の保全再生につながる研究や保護活動

環境指標種等の設定(トンボの種数、など)

・指標となる生物で環境の健全性を把握

情報の共有、チェック・監視の体制整備

・収集した情報を適切に管理運用するための体制づくり

目標2 風土にあった動植物相を回復します

<施策の方向性と想定する取り組み>

風土にあった自然や生きものの回復

- ・公園や街路樹やなどの植栽は選定する種や生きもののつながりに配慮
- ・地域の特性に応じた在来の動植物を、地域の人々とともに回復

生態系保全型農業の推進

- ・市内での有機農業の普及
- ・生きものに配慮した農地づくり(水田魚道の設置、など)

外来種の拡大抑制・駆除

・池干しなどによる外来種駆除と在来種の生息環境再生

方針3 土・水・緑のネットワークづくり ~緑と緑、緑と水辺をつなぎ、まとめる~

目標1 名古屋市をつらぬく土・水・緑の回廊をつくります

- <施策の方向性と想定する取り組み>
 - 土・水・緑をつなぐ回廊づくり
 - ・公共工事における生物配慮の視点を取り入れ
 - ・ため池や河川から草地、草地から樹林などのつながりを確保
 - ・河口部の湿地と周辺環境を保全

目標2 「生きものの散歩道」を確保します

<施策の方向性と想定する取り組み>

「生きものの散歩道」づくり

・緑の回廊・水の回廊形成区域内の緑を増やす

目標3 周辺地域とつながるネットワークを再生します

<施策の方向性と想定する取り組み>

緑のつながり再生(ゴンギツネの道)

・恵那山・猿投山から知多半島など(関連自治体・市民活動の連携)

水のつながり再生(アユと水辺生物の道)

・庄内川・矢田川上流部から藤前干潟など(関連自治体・市民活動の連携)

戦略2:環境負荷の少ない暮らし・ビジネスの創造

- 2050年の暮らしとビジネスをイメージしました -

自然を活かした快適で環境負荷の少ない暮らし 自然を大切にした生産現場が見える店先 自然を活かしたビジネスの成長

イメージを実現するために、3つの方針を立てました

方針1 自然を活かした快適な省エネライフ ~ 生物多様性配慮と気候変動対策の統合~

目標1 自然を活かして、暮らしのエネルギー消費を削減します

<施策の方向性と想定する取り組み>

冷暖房のいらない住生活

- ・自然の光や風、植物などを利用して冷暖房を削減
- ・自然の原理・風土を活かしたまちづくりにより、気候変動を緩和

エネルギー負荷の少ない食生活

- ・旬産旬消や地産地消により、生産や輸送に必要なエネルギーを削減
- ・市民農園、市民水田の推進により、市民も食料生産に参画

エネルギー負荷の少ない交通移動

・公共交通を活かした「駅そば」ライフ(車に頼らなくてよい暮らし)

方針2 賢い商品選択と流域圏の連携を強めます ~ 持続可能な農林漁業を支える流通・消費~

目標1 商品の生物多様性配慮を見える化します

<施策の方向性と想定する取り組み>

表示制度・認証制度の普及・拡大

- ・商品の生産地・原産地表示の拡大・徹底
- ・生物多様性に配慮した農林漁業品の認証制度の普及・拡大(グリーン購入ネットワークや農林水産業団体との連携)
- ・民間活動ガイドラインにおける生物多様性配慮の強化(CASBEE(建築物環境配慮制度)など)

目標2 生物多様性配慮商品の利用を広げます

<施策の方向性と想定する取り組み>

販売店等の取り組み

- ・持続可能な方法による生産物の取扱比率の拡大(認証品、フェアトレード商品、独自ルート商品など)
- ・消費者への積極的な推奨

行政による率先行動

・資材調達における生物多様性商品の優先(グリーン購入基準の強化)

消費者の賢い選択

- ・商品の生産地や生産方法への関心向上
- ・認証品、フェアトレード商品などの選択

(1) 2050年に向けたビジョンと戦略

目標3 伊勢湾流域圏の連携を促進します

<施策の方向性と想定する取り組み>

上流地域と都市の連携(健康な山林・安全な国土・おいしい水)

- ・間伐材の利用促進、木使い運動の促進
- ・上流の自然の環境価値を評価し、流域全体で支えるしくみづくり

地産地消(健康な農地・健康な作物・健康な市民)

各地の地場農産品の消費拡大

方針3 新たなビジネスモデルの創造 ~生物多様性への貢献と活用~

目標1 新しい産業を創出します

<施策の方向性と想定する取り組み>

流域圏内の資源を活かした産業創出

- ・国産材を使用し、山林の保全につながる住宅産業を育成
- ・水の循環や空気の流れなども考慮した、エコ住宅の普及啓発

生物の多様性を基盤とする商品開発

・生物多様性への配慮が、商品の魅力向上に貢献

目標2 企業の社会的責任として生物多様性保全を促進します

<施策の方向性と想定する取り組み>

事業活動による生物多様性への影響の自主的な把握

- ・工場立地や出店計画などの立案時に、生物多様性への影響を考慮
- ・LCAなどに生物多様性の視点を強化

企業活動全般に生物多様性を浸透

- ・社員教育と併せた里山保全活動などの促進
- ・地域などと連携した活動の展開

戦略3:自然とともに生きる文化の創造

- 2050年の文化をイメージしました -

葉ずれの音、虫の音、鳥のさえずりがお気に入りのBGM 自然とつきあう知恵が世代をつなぎ、伝統と創造が融合 地域の自然が誇りとなり、コミュニティが生き生き

イメージを実現するために、3つの方針を立てました

方針1 短期目線から長期目線へ転換します ~ 「自然の助けを借りるくらし」への発想転換~

目標1 次世代に残すなごやを考えます

<施策の方向性と想定する取り組み>

自然の見えざるつながりへの慎重な配慮

- ・短期的な経済性・効率性にとらわれず、持続可能性を絶えずチェック
- ・自然を改変するときは、予防的・順応的なアプローチで(モニタリングとフィード バック)

環境価値を、市民全体で支えあう

- ・自然環境がもたらす社会全体への恵みを、理解しあう
- ・自然環境の保全・維持管理のコストや労力を、社会全体で支えあうしくみを考える

方針2 新しい担い手づくりをすすめます ~ 自然とつきあう知恵の共有~

目標1 子どもも大人も学べる場をつくります

<施策の方向性と想定する取り組み>

子どもたちが自然とふれあえる環境づくり

- ・身近に自然の営みを感じられる学校づくり、地域環境づくり
- ・自然体験の機会づくり(身近な川・ため池・里山などでの遊びや、源流地域のくらし体験など)

自然学習の体系化

- ・保育所・幼稚園、小中学校、高校大学、生涯学習など、あらゆる場に、自然学習を 取り入れ
- ・学校・自治体・NPOなど、教育の担い手の間で連携

目標2 伝統の知恵を現代に活かします

<施策の方向性と想定する取り組み>

伝統的な自然とのつきあい方の継承

- ・風土を活かした伝統の知恵の収集
- ・伝統の知恵の科学的な解明とわかりやすい普及

新しい文化や産業としての展開

・地域資源の循環利用を産業化

(1) 2050年に向けたビジョンと戦略

方針3 地域の自然を活かしたコミュニティづくりをすすめます ~ 共汗から共感へ~

目標1 地域の自然を地域の自慢にします

<施策の方向性と想定する取り組み>

川やため池、鎮守の杜や里山を活かした活動交流の場づくり

- ・自然にちなんだ地域の祭や伝統行事の再興
- ・地域の自然と伝統文化を活かしたまちづくり
- ・自然を活かした交流活動や継続的な自然観察、保全活動 (川辺の楽校、池干し、里山の手入れなど)

農を活かした地域づくり

- ・地域の農産物をテーマにしたイベントで、身近な農と食への関心向上
- ・学校給食に、市内や近郊、伊勢湾流域圏の食材を積極的に活用
- ・空地を活用した市民農園づくり

戦略4:生物多様性を再生し、活かすしくみづくり

- 2050年のしくみをイメージしました -

自然の助けを借りる知恵が、社会のしくみに活かされている 多様な市民活動のネットワークが、都市と自然の共生を支えている

イメージを実現するために、2つの方針を立てました

方針1 生物多様性を活かす社会システムづくりをすすめます

目標1 行政施策を統合的に推進します

<施策の方向性と想定する取り組み>

持続可能な社会づくりを統合して推進する組織づくり

- ・市のあらゆる施策に生物多様性を浸透
- ・横断的な市の組織で持続可能な社会づくりを推進(低炭素、水循環、資源循環など)

国や他の自治体との施策連携

- ・森林や農地などを流域圏や国全体で支えあうしくみづくり
- ・税制のグリーン化を国に働きかけ(樹林・農地の相続税など)
- ・都市計画法の見直しを国に働きかけ(空地の集約誘導手法など)

目標2 生態系サービス(自然の恵み)を見える化します

<施策の方向性と想定する取り組み>

なごやを支える生態系サービスの見える化

- ・生態系サービスの定量的な把握・分析
- ・生態系が担う多くの役割をわかりやすく伝える
- (環境浄化、気候調節・災害防除、生息地の提供、資源の供給など)

目標3 生態系サービスの価値を社会に反映するしくみをつくります

<施策の方向性と想定する取り組み>

市の施策・事業への位置づけ

- ・マスタープランや都市計画における生物多様性視点の強化(生態系サービスの保全 と活用を位置づけ、重点的に自然再生を図る地域の設定、など)
- ・大型公共事業の構想・計画段階での環境チェック制度の導入
- ・民有樹林・農地などの維持管理を市民が支えあうしくみづくり

民間事業への位置づけ

・開発行為に際して、生態系サービスの減退を回避・低減・代償するしくみづくり

伊勢湾流域圏での連携

・持続可能な生態系サービスを享受しうる流域圏づくりの検討 (関係自治体・機関・住民・学識者の連携による)

方針2 自然共生まちづくりを推進する場として「情報交流ネットワーク」づくりをすすめます

目標1 情報拠点の役割を果たします

<施策の方向性と想定する取り組み>

情報の収集・整理

- ・多様な主体による生物調査・環境調査データの収集(行政、市民・事業者、学術機関、自主調査、など)
- ・収集情報のデータベース化
- ・まちづくり情報との関連づけ

情報の市民活用

- ・データ・標本(市民共有の財産)の保管と公開・市民活用
- ・情報をわかりやすく編集し、広く市民に発信

目標2 交流拠点の役割を果たします

<施策の方向性と想定する取り組み>

市民活動への支援

- ・市民・学校・事業者などの取り組みへの支援 (調査・保全活動の進め方、先進事例などの情報とノウハウ提供)
- ・担い手づくりへの支援

多様な主体のネットワーク化

- ・市民・学校・事業者・専門家などの活動交流や協働の促進
- ・多様なステークホルダーによる合意形成の促進(環境活動・まちづくり活動との連携促進)

目標3 多様な主体の連携で拠点を支えます

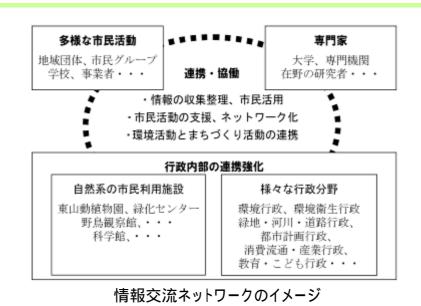
<施策の方向性と想定する取り組み>

行政内部の連携強化

- ・既存の市の施設・機関を生物多様性の視点で再編
- ・環境行政、緑地行政、その他のまちづくり行政などと一体的に、拠点の機能を推進 できる体制を整備

市民活動や専門機関との連携強化

- ・市民・学校・事業者などと、相互に協力・連携
- ・大学・専門機関・在野研究者などと、相互に協力・連携



(2) 100年後のなごやの姿

みんなで描こう! 100年後のなごや

「しみん検討会議」や「環境デーなごや」のイベント等で市民のみなさんに100年後のなごやを描いていただきました。

アンケートの数は487を超え、"生きものいっぱい" 緑いっぱい"のなごやの絵を描くことができました。



To to to the control of the control

しみん検討会議

「みんなで描こう! 100年後のなごや ~人と自然が共生する未来のなごや~」 のようす

会場に集まった市民の方々が、100年後の なごやに何を渡したいか?

そんな想いで様々な意見をよせました。

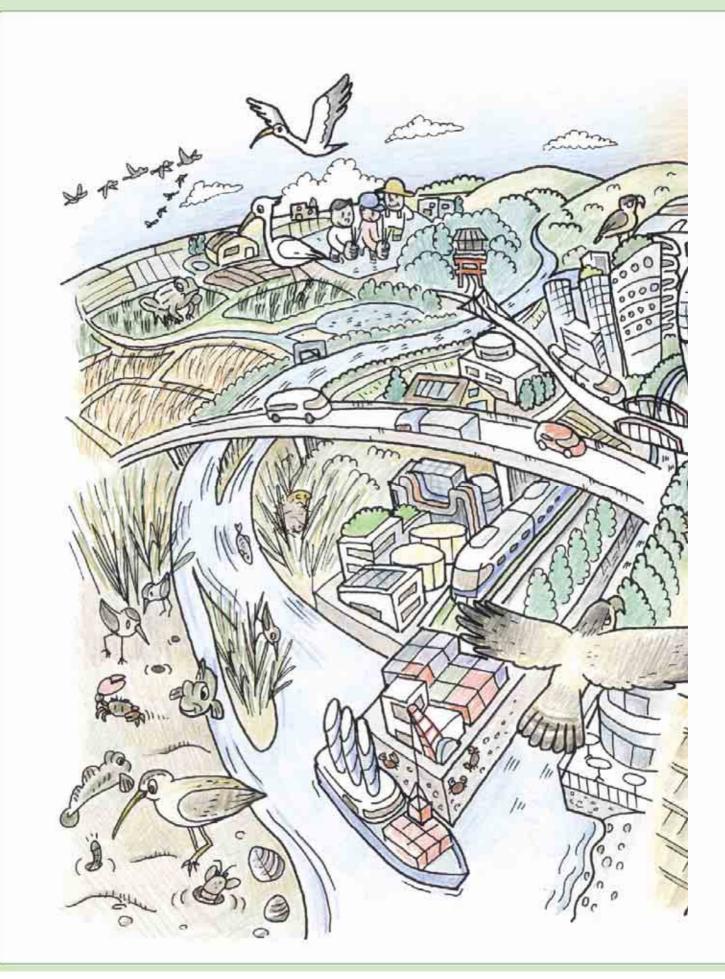


環境デーなごや2009 「みんなで描こう!100年後のなごや ~生物多様性みんなの想いの樹~」 のようす

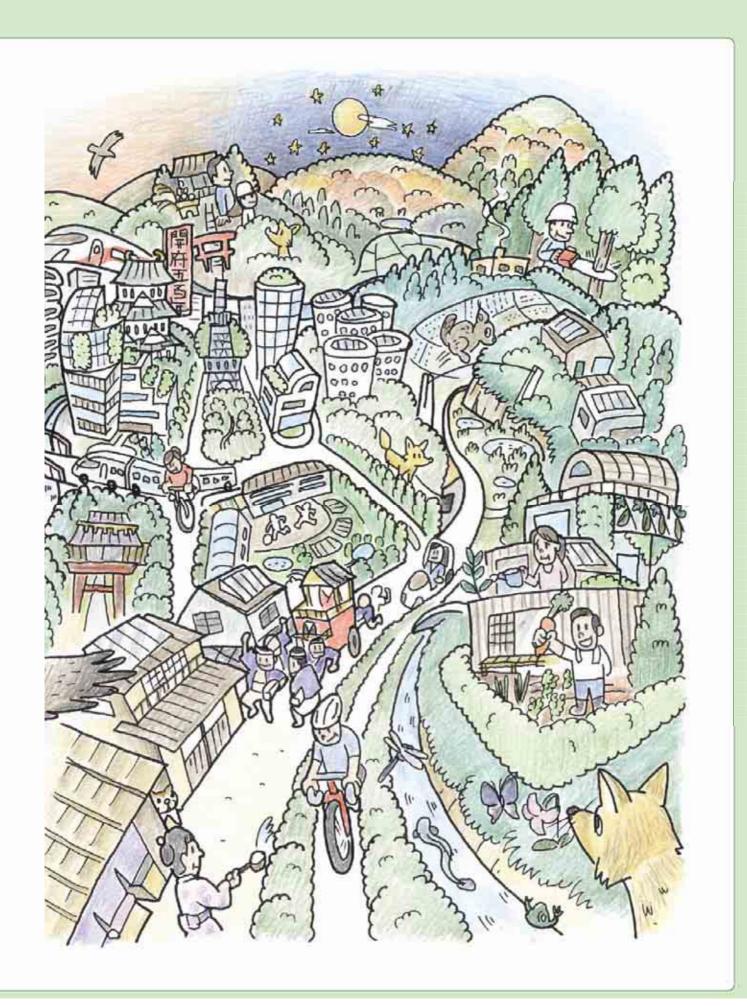
100年後のなごやにあったらいいな!そんな想いで環境デーに集まった市民の方々が様々な意見をよせました。

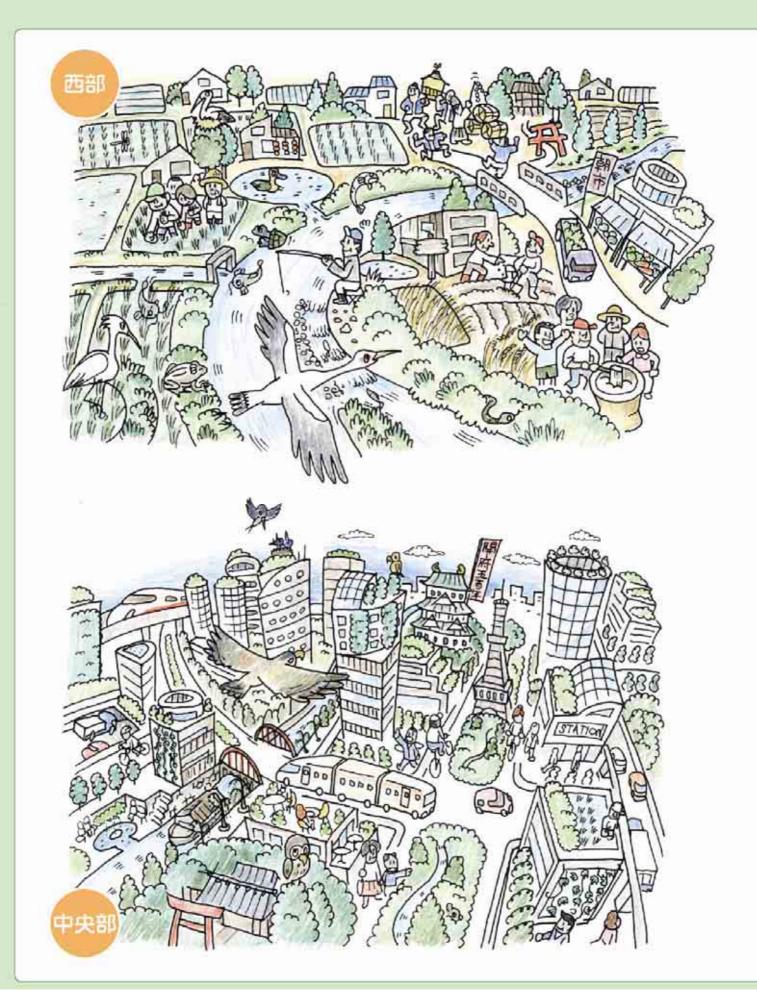


100年後のなごやの姿

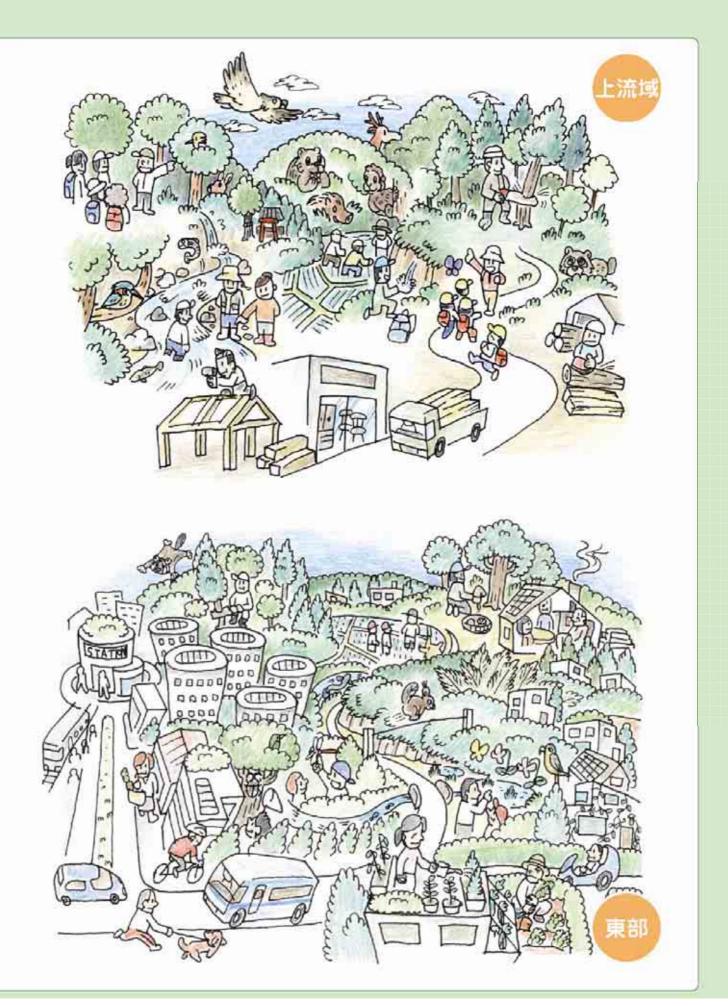


(2) 100年後のなごやの姿





(2) 100年後のなごやの姿



第5章 もう、始まっています

実践編

戦略の達成に向けた5つの動き

~ 身近なところで戦略は動き出しています~

戦略と様々な取り組み

生物多様性なごや戦略

戦略1:自然に支えられた健康なまちの創造

(1)健康なまちづくりにつながる動き

(調整中)

緑の回廊・水の回廊・風の道の形成 ため池いきいき事業

戦略2:環境負荷の少ない暮らし・ビジネスの創造

(2)暮らしやビジネスの変化につながる動き

間伐材プロジェクト 市民水田づくり フェアトレード

戦略3:自然とともに生きる文化の創造

(3)新しい担い手や地域づくりにつながる動き

エコフレンドシップ事業 水源地域との交流 バケツ稲づくり

戦略4:生物多様性を再生し、活かすしくみづくり

(4)しくみづくりにつながる動き

情報交流のネットワークをめぐる動き (調整中)

名古屋イニシアチブ

~ 都市における生態系サービスの見える化

(5)横断的な取り組みに向けて

水の環復活2050なごや戦略 低炭素都市2050なごや戦略 緑の基本計画の見直し

(1)健康なまちづくりにつながる動き



調整中

緑の回廊・水の回廊・風の道の形成

戦略との関わり: 戦略1 方針1 目標2 など

概要

生物多様性の保全や、伊勢湾や郊外地域と名古屋の市街地とのつながりを確保、すがすがしい空気を街なかによびこむといった観点から、緑の保全・創出は、既存の河川等を軸とした一定の区域において優先的に推進することが効果的といえます。

そこで、「緑の回廊・水の回廊形成区域」を設定し、既存の緑を保全しながら新たな緑を創出することによって、緑と緑をつないでいく取り組みを検討していきます。(名古屋市緑政土木局)

取り組みの例

- ・「緑の回廊・水の回廊形成区域」の設定
- ・河川を中心とした緑の形成
- ・道路を中心とした緑の形成 など

調整中

ため池いきいき事業

戦略との関わり: 戦略1 方針2 目標2

目的

- ・外来生物の除去による対象地域の生物多様性の向上
- ・市民を対象とした普及啓発活動による生物多様性の保全意識の向上

活動の概要

活動期間

平成20年度~平成22年度 活動主体

名古屋ため池生物多様性保全協議会

(八事学区連絡協議会、隼人池を美しくする会、 名古屋ため池調査実行委員会、なごやの森づく りパートナーシップ連絡会、なごや環境大学実行 委員会、名古屋市)

活動概要

- ・市内の主要なため池を対象に、水質・生物調査を行い、現状を把握
- ・モデルため池を対象に、池干しの実施とその効果の確認
- ・名古屋市における総合的な生物多様性の保全・再生方法を市民を交えて検討
- ・生物多様性体験学習プログラムを開発・実践し、市民の生物多様性への理解を深める



(2)暮らしやビジネスの変化につながる動き

間伐材プロジェクト

戦略との関わり: 戦略2 方針2 目標3

目的

"名古屋市上流域の間伐材を使用した商品"の販売活動を通して、都市と山間部が連携した持続可能な商業流通活動の仕組みを構築する

(生物多様性なごや戦略しみんプロジェクト)

概要

活動主体

市内中小企業

活動概要

- ・名古屋市中区 大須商店街内に実店舗を開設し、一般消費者及び法人企業に対して、間 伐材を使用した商品の展示及び販売を行う。
- ・また、購入者の声を取り込み、岐阜県加子母地区に伝え、市場に合わせた商品開発を継続的 に行ない、継続的に新たな商品を供給する。
- ・結果として、"21世紀にあるべき持続可能な商業流通"による環境保全のあり方を実現する。



【持続可能な商業流通のかたち】

市民水田づくり

戦略との関わり: 戦略2 方針1 目標1 など

調整中

フェアトレード

戦略との関わり: 戦略2 方針2 目標2

調整中

(3)新しい担い手や地域づくりにつながる動き

エコフレンドシップ事業

戦略との関わり: 戦略3 方針2 目標1

なごや子ども環境会議

目的

環境首都なごやを担う人材の育成

活動主体

名古屋市教育委員会

活動概要

参加人数:500~750人

参加児童生徒:環境未来探検隊、政令指定都市等の児童生徒、名古屋市立小中学校生会議の内容

- ・生き物を守るために、自分たちの生活を見直す提案等
- ・生き物を守るための取組についての意見交換
- ・参加した子どもたちで誓い合うメッセージ



《会場参加者も交えた意見交換》



《メッセージの手渡し》

環境未来探検隊

目的

自然豊かな地での体験活動や自然を守る人たちとの交流

活動概要

参加児童生徒:各区の小学生1名、中学生1名

派遣日程:8月上旬3泊4日

主な派遣先:

平成18年度釧路湿原、平成19年度阿蘇草原、平成20年度豊岡市、平成21年度佐渡市



《地元小学生との交流》



《自然体験》

水源地域との交流

戦略との関わり: 戦略3 方針3 目標1 など

調整中

バケツ稲づくり

戦略との関わり: 戦略3 方針1 目標1

目的

- ・ 稲が太陽・土・水などの自然の恵みを受けて実ることを五感で学んでもらう。
- ・ 生物資源である食べ物への感謝の気持ちを育てる。
- ・ 我々の暮らしが生物多様性の恩恵で成り立つことを実感してもらう。

概要

活動主体

名古屋市環境局環境都市推進部生物多樣性企画室

JA愛知中央会農政営農部(協力)·社団法人名古屋建設業協会(協力)

活動概要

- ・ 市内の1250人の園児を対象にバケツで稲づくりを 体験してもらう。
- ・ 田んぼの生きものに着目した稲作りを推進する講師 を向かえ、園児や保護者、教員への講習会を開き、 さまざまな生きものの恵みにより食べ物が成り立ってい ることを理解してもらう。
- ・ 園児たちの取り組みを広く市民に広報することにより、生物多様性への理解のきっかけとする。



(4)しくみづくりにつながる動き

情報交流のネットワークをめぐる動き

戦略との関わり: 戦略4 方針2 目標3

生物多様性センター勉強会

目的

「生物多様性なごや戦略」を進めていくための基軸施設としての生物多様性センター設立の必要性について、情報の共有と意見交換を行う(生物多様性なごや戦略しみんプロジェクト)

活動主体

研究者、市民団体、など

活動概要

第1回勉強会(平成21年10月30日)

「私たちの自然と博物館」

講師: 糸魚川淳二氏(名古屋大学名誉教授)

第2回勉強会(平成21年11月26日)

「生物多様性センターに求められる機能 自然史 系博物館を先行事例として」

講師:佐久間大輔氏

(大阪市立自然史博物館学芸員)

第3回勉強会(平成22年1月予定)

講師:芹沢俊介氏(愛知教育大学教授)





市民調査隊

平成20年度から実施されている「地域守るため池作戦」は、これまで連携のなかった地域住民、専門家、行政等が協力して、生物調査や外来種の駆除等を行っています。平成21年度は述べ170日、2,800人の市民調査員が活動に参加するなど、取り組みが着実に拡大しています。

この様な市民による調査活動によって集められたデータや人のネットワークは、今後の名古屋の生物多様性の情報交流につながっていくものです。

戦略との関わり:

調整中

名古屋イニシアチブ ~都市における生態系サービスの見える化~

戦略との関わり: 戦略4 方針1 目標2

調整中

(5)横断的な取り組みに向けて

3つの環境戦略と緑の基本計画

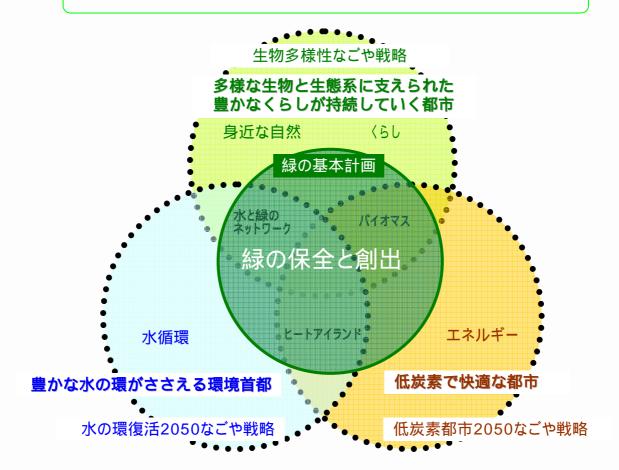
戦略との関わり: 戦略4 方針1 目標1

現在、名古屋市では、この「生物多様性なごや戦略」以外に、生物多様性の保全と深い関わりを持つ、2つの環境戦略が策定され、1つの基本計画の見直しが進んでいます。

「生物多様性なごや戦略」「水の環復活2050なごや戦略」「低炭素都市2050」の3つの環境戦略では、持続可能な都市なごやを目指すための2050年に向けたビジョンを示し、現在見直し中の「緑の基本計画」では、緑の保全と創出に向けた具体的な施策や推進体制を示していきます。

これらの戦略や基本計画以外にも、現在、見直しが検討されている名古屋市の様々な計画や施策に、生物多様性の保全を盛り込んでいきます。

連携でめざす日本の風土を活かした環境都市なごや



水の環復活2050なごや戦略

概要

都市化によって損なわれた健全な水循環を回復し、 豊かな水の環がささえる「環境首都なごや」の実現を 目指します。長期的に実現したい、水循環に関する名 古屋の将来像と数値目標を示しました。

(平成21年3月策定:環境局)

水収支の目標

蒸発散	31%
浸透・貯留	33%
直接流出	36%



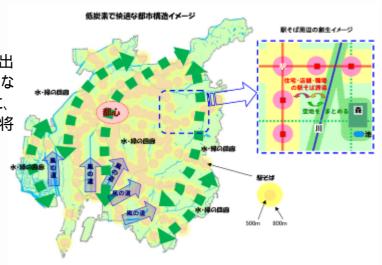
低炭素都市2050なごや戦略

概要

地球温暖化の原因である温室効果ガス排出量と枯渇が懸念される化石資源消費の大幅な削減を目指した低炭素社会を実現するために、市民・事業者・行政などの主体が共有すべき将来像や施策の方向性をまとめました。 (平成21年11月策定・環境局)

挑戦目標(温室効果ガス)

中期(2020年) 25%削減(1990年比) 長期(2050年) 8割削減(1990年比)



緑の基本計画の見直し

概要

名古屋市みどりの基本計画は、緑地の保全及び緑化の推進に関する施策を総合的に展開するための計画で、その根拠は都市緑地法に規定されています。現在、平成23年度から実施となる、新しい基本計画への見直しを進めています。

(平成22年度策定予定·緑政土木局)

取り組みの方向性(案)

- ・ 緑の総量アップ!
- ・ 人と生き物が快適に暮らすまちづ(リ
- みんなで取り組む緑のまちづくり

